



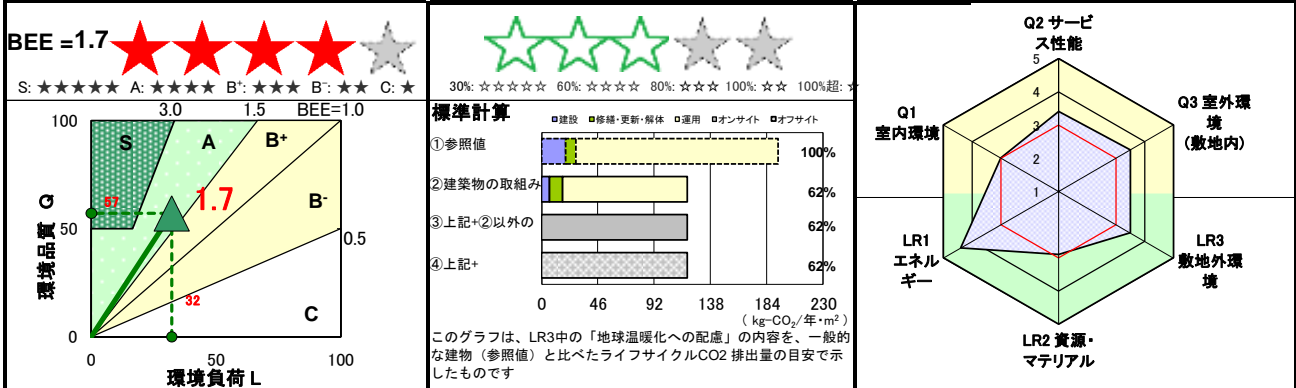
## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

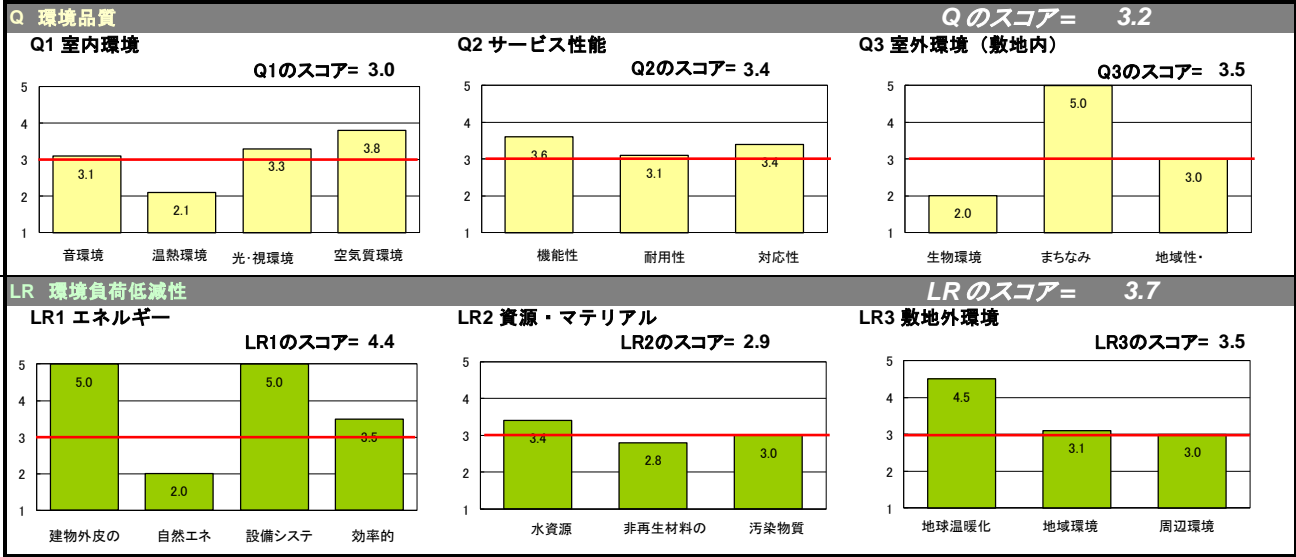
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業(第一工区)施設建築物等新築工事 南街区	階数	地上21F 地下1F
建設地	札幌市中央区北3条東5丁目5-6の一部 他19筆	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,009 人
気候区分	2地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2016年12月9日
敷地面積	7,751 m <sup>2</sup>	作成者	フジタ・北海道日建設計 設計共同体
建築面積	2,133 m <sup>2</sup>	確認日	—
延床面積	30,861 m <sup>2</sup>	確認者	—



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



### 2-4 中項目の評価(バーチャート)



### 3 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b></p> <p>住棟を高層化することによって敷地内空地を確保し、積雪時も容易に移動可能な空中歩廊を隣接街区と繋ぐ計画とした。地域に溶け込むように広範囲からの景観にも配慮した色彩計画とし、道路からのセットバックにより高層建築の威圧感を軽減した。</p>	<p><b>A 省エネルギー</b></p> <p>共用部居室部の換気設備は全熱交換器を設置、住戸専有部の開口部は二重サッシ(アルミサッシ単板ガラス+プラスチックペアガラス)、各サッシにクレセントを設け、熱負荷軽減に配慮した。共用部及び住戸専有部すべてをLED照明を採用した。</p>
<p><b>B 省資源等</b></p> <p>設備は耐用年数の長い配管材を採用し更新間隔に配慮した。P S、天井内配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。</p>	<p><b>C 緑化</b></p> <p>通常の緑化基準(20%)よりも緑化面積(26%)を多くとり、広場や緑道を整備して、居住者のみならず近隣や訪問者を含めた市民の憩いの場を提供する計画とした。寒冷地の気候に適した樹種の選定により維持管理負担を低減し、緑化空間の持続的な活用が容易な計画とした。</p>
	<p><b>D 雪処理</b></p> <p>ガスコージェネ予熱水の熱源を利用した融雪設備を設置し、エネルギーの有効活用を図った。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される